

時の流れの生き証人

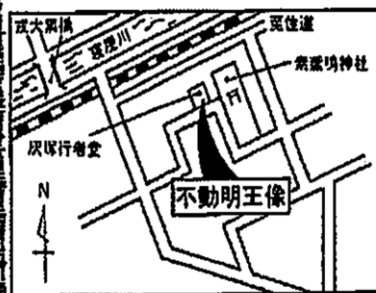


不動明王像

灰塚三丁目

灰塚三丁目薬師明神社の西隣りにある行者堂。役行者像を中央に、向かってその右側に地藏、左に不動明王像が安置されている。不動明王は、密教の本尊である大日如来が、すべての悪魔をやっつける

ために姿を変えたものである。その姿は一般に右手に剣、左手につなを持ち、炎を背負っている。剣は種々の迷いのもととなる悪魔を切り、つなは迷いの道に陥るときにしばって救ってくれる、炎はすべ



ての迷いを焼き尽くしてくれるという。不動明王への信仰は、密教がさかんになった平安初期から広まり、特に江戸時代にはどの宗派のものでも不動明王を信仰できたため、さらに広まった。火をたいて折る護摩供養の本尊とされることが多く、役行者と共にまつられることが多い。灰塚行者堂では、毎月七日に護摩供養が行われている。

時の流れの生き証人

東高野街道の道標

中垣内二丁目



高野山参拝のために平安時代に開かれた街道と合流、和泉山脈の紀見峠で、水路としての淀川とともに山城と河内を結ぶ主要道であった。枚方市の洞ヶ峠から本市と東大阪市の生駒山系を南下し、大和川を渡って河内長野市に

「嘉永二酉年三月建之」

(二八四九年)、「乃ざき」「やわた」などの文字が大きく深く刻まれ主要街道だったことがうかがわれる。今は、民家の軒下にあるため人目にふれることもなく建っているが、街道を行きかうさまざまな旅人の姿をじっとながめてきたことであろう。

